

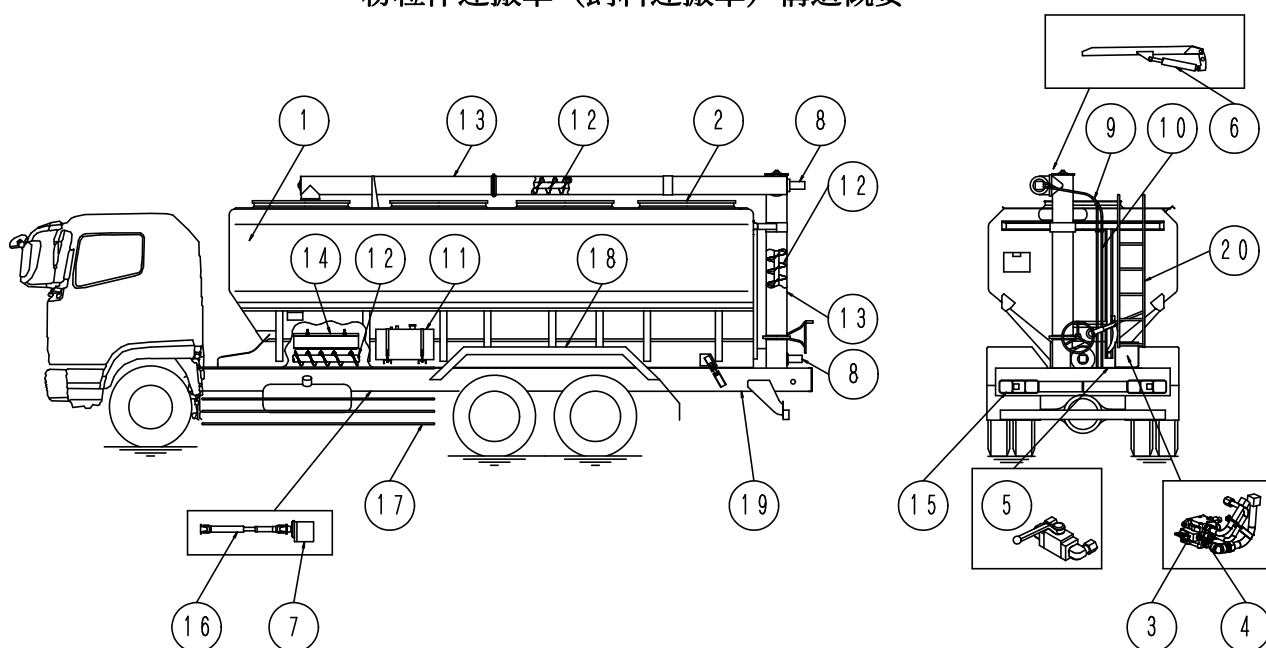
粉粒体運搬車 (飼料運搬車) 解体マニュアル

自動車精工株式会社

本解体マニュアルは一般的な解体例を示しています。
掲載された図等は実物と異なる場合がございますのでご了承ください。

2026年8月1日

粉粒体運搬車（飼料運搬車）構造概要



番号	品 目 名
1	タンク
2	マンホール
3	コントロールバルブ
4	チェックバルブ
5	ブーム下げバルブ
6	起伏シリンダ
7	油圧ポンプ
8	油圧モータ
9	油圧ホース
10	油圧配管
11	作動油タンク
12	スクリュ
13	ケーシング
14	シャッタ(ダンパ)
15	灯火器類
16	ドライブシャフト
17	サイドガード
18	リヤフェンダ
19	スペアタイヤキャリア
20	外装部品

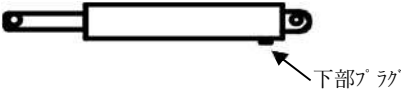
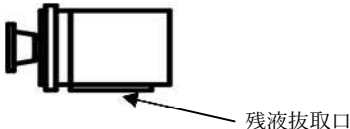
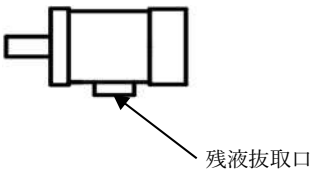
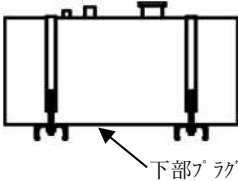
(注記) 車格及び仕様により実物と形状等が異なる場合があります。

粉粒体運搬車（飼料運搬車） 解体マニュアル

番号.	品 目 名	解 体 方 法	注 意 事 項
	事前処理 1	タンク内に付着している粉粒体や底部に残っている粉粒体を専門業者にて処理して下さい。	タンク内で作業するときは、保護メガネを着用し、全てのマンホールカバーを開けて十分に換気をして下さい。 換気が不十分な場合、酸欠や中毒を発生する恐れがあります。 粉粒体によっては爆発等の危険があります。
	事前処理 2	作動油タンク、油圧配管内の作動油を抜取って下さい。	別紙参照にして下さい。
	事前処理 3	外装部品を取外して下さい。	
	タンク	マウンティングブラケット等のボルトを外し、タンクをシャシから切離して下さい。タンク付属品を取外して下さい。	シャシ側と繋がっている、油圧ホース等を取外して下さい。
1	タンク	溶断等により切断して下さい。	引火、切断ヒューム、粉塵等に注意して下さい。
2	マンホール	金属類、ゴム類、樹脂類に分別して下さい。	
3	コントロールバルブ	作動油を抜き、金属類、ゴム類、樹脂類に分別して下さい。	
4	チェックバルブ	切断して下さい。	
5	ブーム下げバルブ	作動油を抜き、金属類、ゴム類、樹脂類に分別して下さい。	
6	起伏シリンダ	作動油を抜き、金属類、ゴム類、樹脂類に分別して下さい。	
7	油圧ポンプ	作動油を抜き、金属類、ゴム類、樹脂類に分別して下さい。	
8	油圧モータ	作動油を抜き、金属類、ゴム類、樹脂類に分別して下さい。	
9	油圧ホース	作動油を抜き、金属類、ゴム類、樹脂類に分別して下さい。	ホース内の金属は分解不可です。
10	油圧配管	作動油を抜き、金属類に分別して下さい。	
11	作動油タンク	作動油を抜き、金属類、ゴム類、樹脂類に分別して下さい。	
12	スクリュ	金属と樹脂類に分別して下さい。	
13	ケーシング	金属と樹脂類に分別して下さい。	
14	シャッタ(ダンパ)	金属とゴム類に分別して下さい。	
15	灯火器類	金属類、樹脂類、ゴム類、電線類に分別して下さい。	
16	ドライブシャフト	金属類に分別して下さい。	
17	サイドガード	金属類に分別して下さい。	材質は鉄またはステンレスです。
18	リヤフェンダ	金属類とゴム類に分別して下さい。	
19	スベアタイヤキャリア	金属類に分別して下さい。	
20	外装部品	金属類、ゴム類、樹脂類に分別して下さい。	

(注記) 解体作業中に発生した事故等につきましては一切の責任を負いかねます。

残液の抜き方

項 目	品 目 名	内 容	注 意 事 項
残液抜き	コントロールバルブ	コントロールバルブから配管を取外すことで、 残液が抜けます（油量約 200cc）。 	・ 抜いた残液の処理についてはユーザー又は、処理業者の指示に従って下さい。 ・ オイルパン等で、残液を受けて下さい。
	起伏シリンダ	シリンダ下部プラグを取外すことで、 残液が抜けます（油量約 500cc）。 	
	油圧ポンプ	油圧ポンプから油圧配管を取外すことで、 残液が抜けます（油量約 200cc/個）。 	
	油圧モータ	油圧モータから油圧ホースを取外すことで、 残液が抜けます(油量約 200cc/個)。 	
	作動油タンク	作動油タンク下部プラグを取外すことで、 残液が抜けます(油量約 40 リットル～約 130 ℓ)。 	
	油圧配管 油圧ホース	それぞれ、分別することで、残液が抜けます(油量約 20 ℓ)。	